

# 紅河デルタ平野の河川地形

< 船 引 彩 子 <sup>1)</sup> >



写真1 潮汐卓越地域に位置する六頭江(左). 海岸から内陸へ約70kmの地点で複数の河川が合流し、また下流に向かって分流する。これより下流ではタイダルクリークが発達するし、満潮時には河岸や中州が水面下に没する。また波浪卓越地域では現在でもデルタが前進し、新しく形成された土地は塩田などに利用されている(右)。

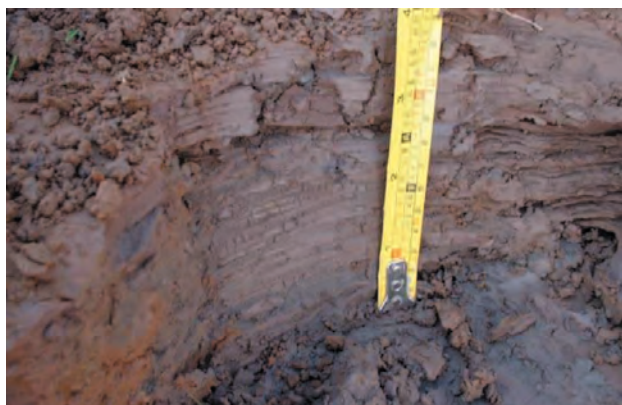


写真2 河川卓越地域にある現在の紅河。攻撃斜面側の露頭を撮影(左)。自然堤防を形成しているのは淘汰のよい細砂とシルトの互層。河岸や中州ではトウモロコシなどを栽培している(右)。



写真3 紅河の支流、ダイ川の自然堤防。フランス植民地時代に輪中内の排水河川とするために紅河からの流入口を可動堰で分断した。現在はほとんど流量がなくなり、かつての巨大な自然堤防も段丘化しつつある。段丘化した自然堤防の露頭の高さは約5m。左は現在のダイ川上流域の様子。手前に写っている水牛の大きさから現在の流量がほとんどないことが分かる。



写真4 ダイ川・紅河を分断するダム堰。1934-1937年に建設され、1975年に改修されている。この上流には1968年に建設された可動堰が存在するが1971年の既往災害洪水以降、開門されることはなかった。現在も水面は湿地帯のようになっており、雨季でも歩いて渡れるほどの深さしかない。



写真5 更新世段丘と沖積低地は緩傾斜斜面や段丘崖によって区別できる。平野の北部では現在の河川によって更新世段丘が開析され、段丘崖が形成されている(左)。その下は紅河北側の後背湿地に続く沼地や水田となっており、風化した砂層やシルト層が露出している(右)。



写真6 更新世段丘は写真のような緩斜面によって複数の段丘面に分けられる。これらの段丘は主に平野の北部に広く発達しており、その編年は今後の課題でもある。